



決算審査を行った9人の委員

# 決算特別委員会レポート

## 令和5年度新規事業の実績は昨今の物価高騰による事業への影響はどうだったのか

### 二次救急医療体制事業

**Q** 佐世保県北の二次医療圏における病院群輪番制病院運営にかかる事業費のうち、本市の負担金が構成自治体の中で一番高いとのことだが、緊急搬送者のうち本市からの搬送者は全体の約12%となっており、負担額がアンバランスではないか。

**A** 構成自治体は平戸市・松浦市・佐世保市・佐々町だが、佐世保市の事業対象エリアが旧北松地域のみであり、按分の際、平戸市が割合的に高くなっている。現在構成市町で、二次医療圏の輪番制に対する負担金のあり方を検討しており、搬送実績も含めて按分するよう提案している。一方この負担金は北松中央病院に対するものであるが、搬送実績がある佐世保中心部の大規模病院に対しての負担金は生じていない状況もあることから、これらを含め検討していきたい。

### シルバー人材センター支援事業

**Q** シルバー人材センターの会員数は減っているが、就業延べ人員や契約金額が増えている要因は何か。

### アルベルゴ・デイフーズタウン推進事業

**Q** 令和5年度の進捗および本事業にかかる計画書の策定状況は。

**A** 令和5年度に国の事業として採択されたことにより、モニターツアーも行いながら可能性を探り、「平戸城下町エリア」「田助地区エリア」「大島村神浦地区エリア」の3地区を選定した。計画書については、策定委員や3地区の地元住民とのワークショップで出した意見を踏まえ、令和5年度に策定した。

**意見** この3地区の住民が内容をしっかり理解しなければ、本事業は前に進まない。機運を盛り上げるため、地元住民や関係者には事業の途中経過を説明しながら情報提供を行い、今後も相互理解に努めてほしい。



**A** 会員の高齢化が進んでおり、作業効率維持の観点から、これまで1名対応だった現場に2名で赴くなど、運用が変化している部分もある。受注額もその影響を受けているのではないかと分析している。

### 地域水産資源環境調査事業

**Q** 水質調査を4か所行っているとのことだが、その場所での赤潮の今後の予測はつけているのか。

**A** 水質調査は実施しているが赤潮の調査ではない。しかし薄香湾と古江湾では赤潮の発生が危惧される時期に、市と県が赤潮監視装置を設置しており、漁業者自らも採水し関係機関が調査をしている。先行して赤潮が発生する傾向にある佐世保市の水質データなどを見ることが可能なので、漁業者と情報を共有しながら赤潮の発生を予測している。

### カワハギ陸上養殖実証試験事業

**Q** 既存の遊休化した漁協の共同利用施設などを活用して、カワハギの陸上養殖が可能か検証する目的の事業だが、令和5年度の実績は。

**A** 令和4年度第一期目の種苗（稚魚）搬入が令和5年1月末だったた

### 道路単独改良事業

**Q** 昨今の物価高騰によって、工事進捗などにも影響が出てきていると思うが、実態はどうなっているのか。

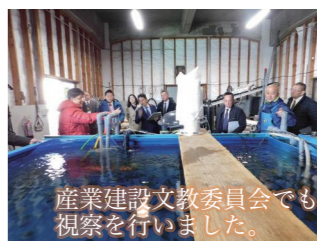
**A** 人件費を含め一割程度事業費が高騰し、対応可能な整備延長が短くなるなど地区要望への対応にも影響が出ている状況。本事業は年々要望件数が増えており、要望の約半数は新規箇所となっている。地区間での調整は難しいが、中には重点的に取り組むべき箇所もあるため、そのような場合は他地区要望とも調整しつつ対応していきたい。

### 空き家対策事業

**Q** 空き家の解体費用も高騰していると思われる中、現在の補助率や補助上限額で今後解体が進むのか懸念するが、どのような考えか。

**A** 老朽危険空き家の解体を誘導する意味では補助率・上限額ともに高いほうが良いと思う一方、空き家は個人の所有物であることから、多額の補助金を投入することは慎重に検討が必要。本市の補助上限額（80万円/件）は、県内他市町と比べても高い方であり、平成28年度に補助上

め、11月まで実証試験を実施し、試験魚がどれだけ市場で評価があるかの試験出荷を行うとともに、ランニングコストなどの削減に努めた。結果として令和5年3月末までの生残率はある程度あったものの、夏以降はへい死が多く、歩留まりは36%だった。現在は第二期目の種苗を令和5年11月に搬入し養殖実証試験を継続中である。



### 平戸産品販路開拓商社構築事業

**Q** 地場産品の販路開拓は自社商品を含め鮮魚、一次産品、加工品の販路を域外に広げていくとのことだが、新商品の開発はどのように行っているのか。

**A** 新商品の開発は地域商社（平戸DMC）に委託しており、原材料やノウハウはあるが設備投資できない事業者や販路を持っていない事業者など新商品を作りたいが開発が困難な事業者の課題を解消し、事業者と連携した商品開発を行うなど、平戸市の魅力が高まる商品の開発に、市担当者も一緒になって取り組んでいる。

限額を引き上げた経緯もあり、現段階ではこの額が限度だと認識している。今後、老朽危険空き家が増える必要となつた場合は、他市の状況や国の補助金なども考慮し予算の増を検討したい。



### 離島緊急搬送支援事業

**Q** 離島からの搬送実績および事業者の利用状況はどのようになっているのか。

**A** 大島75件、度島15件、高島1件、合計91件の搬送実績で、協力事業者が5者ある中、最も多い事業者では66件の搬送対応がなされている。

**Q** 搬送が多かった事業者が今後対応できなくなつた場合、搬送が難しくなると思うが今後どのように考えているか。

**A** 消防業務に関する離島対策検討委員会を立ち上げ議論している。本事業も含めた離島対策に努めたい。